### あきちゃんの魔法のふでばこ プロジェクト 成果報告

東京都立墨東特別支援学校 津久井翔希

### iPadを用いた授業の事例

準ずる教育課程や知的代替の教育課程での活用は多くの可能性を秘めている。

- →調べ学習や教科の基本的な学習で活用。
- →行事で生徒が司会をする時, 紙原稿の代わりに iPadを使う。
- →校外学習や宿泊行事先での活用。

本校のように、多数の自立活動を主とする教育課程に在籍する障害の重い子どもへの実践報告は、あまり紹介されていない。

#### 高等部Kくんの取り組み

#### Kくんの課題

- ①周辺視の目の使い方を中心視に②因果関係の理解
- ③目と手の協応④対応弁別の学習

KくんにiPadを渡すと、興味を持ってiPadを触る。

そこでiPadを個別学習で活用してみた
→iPadに表示された図形の
写真と同じ具体物を選ぶと
いう課題

→達成できたらiPadのアプリ で遊ぶ。





### iPadは魔法のふでばこ?

iPadの代わりにiPadで表示したものを印刷した写真カードを用いてこの課題を行ってみたが、写真カードには関心を向けず、また、その具体物にも手を伸ばさなかった。

iPadが学習意欲を高めるもの、モチベーションにつ ながるものになっている。

こうした学習の成果として、中心視の目の使い方や対応弁別の理解が深まり、意図的な操作でiPadを使っている

ている。

天板にiPadをは められるように し、タッチが主体 になるようにし た。

#### 中学部Yくんの取り組み

パソコンのソフトではなかなか興味関心を引き 出せていなかった。ビッグスイッチやビッグマッ クは随意的に操作できるが、微細な操作は難し い。

- ・昨年度からAKB48や嵐に興味を持ち出す。
- →iPod touchでPVを見るのが楽しみになる。
- →iPad でも好きなPVを選択し、iPadタッチャーを 使ってビッグスイッチで再生して見る。

#### YくんのiPad活用の工夫



- ・ユニバーサルアームと iPad用スタンドをつなぎ ,一番見やすく触れやす い位置に持ってくる。
- ・好きな活動(AKBのビデオを見る)をすることを目的にして、学習的なアプリにも挑戦する。

## ひらがなの学習に〈基本〉

- ・一字一字の学習→「ひらがななぞり」 (好きな友達の名前で)
- ・好きな歌でひらがなに慣れる→「UTAMO」 (文字だけで余計な刺激が目に入らない)
- \*上記に加えて、トーキングブリックスやメッセージメイト等のVOCAを使い、単語の頭文字や単語の表示と音声を合わせることで、日常的にひらがなに触れていった。

## ひらがなの学習にく応用>

- ・作文(表現) →「かなトーク」や「Talkinng AID」 」(昨日のできごとについて、徐々にふくらまし ていく)
- \*「かなトーク」ではキーボードをiPadの基本の物に替えることができ、予測変換が可能になる。「かなトークPlus」には、24件の単語登録機能がある。
- \*「Talking AID」ではスイッチインターフェイスが使用可能になる予定。

# その他の活用

iPad2のミラーリングを活用

- →花火をあげるアプリを文化祭のステージで大画面 で投影し、生徒が花火師として演じた。
- →絵本等、大きく提示したい教材をPDFやkeynote のファイルにし、対応するアプリで映す。
- →生徒の作業している手元をiPadのカメラで映し、 それを大画面で映す。

# まとめと課題1

- 「わかりやすい」iPadがモチベーションになって 学習が進むことがある。
  - →海外(PERKINS SCHOOL FOR THE BLIND) の取り組みの中でも、障害の重い生徒の活用の中で、コントラストが良いことやタッチした際の反応が良いことが、子どもの関心を引き、学習の結びついていることが報告されている。
- ・教材をデジタル化したり、子どもに合ったアプリケーションやコンテンツを見つけたりすることでiPadの活用範囲が広がる。

# まとめと課題2

- ・障害の重い子どもにはスイッチインターフェイス (クリック感、振動、これまで形成した運動パタ ーンの使用)の開発・普及が今後iPadの可能性を 広げると思われる。
- AssistiveTouchによって様々な動作を、簡単に行 なえるようになった。一方で、ホームボタンが気 になってしまう生徒がおり、ホームボタンも一時 的に反応しない等の設定ができると良い。